

ぜんそく治す抗体薬、ぜんそく根治に希望 重症患者に新たな選択肢

ワイズスクランブル

ぜんそくの症状で注意すべきは、せき
がいったんおさまって治療を中断したり、
治療薬が合わなかったりして重症化する
ケースです。発作が続くと命にかかわる
リスクもある“ぜんそく”。近年、分子レ
ベルでの研究が進歩を遂げ、新たな治療
薬の選択肢が現れてきた、という。

ぜんそくは、せきから始まり、「ゼー
ゼー、ヒューヒュー」といった喘鳴（ぜ
んめい）音、さらには呼吸困難などの症
状へと発展する。

人間にとって「何がつらいか」といえ
ば「呼吸がスムーズにいかない」ことほ
どつらいものはない。

日本アレルギー学会が監修・作成した「喘
息（ぜんそく） 予防・管理ガイドライン」で
は症状の重さに応じてステップ1～4に分類
し、重症のステップ4（重症持続型）は治
療していても状態が悪化したり、夜間の発
作が頻繁に現れたりする状態と定義する。

ガイドラインでは、このような重症患
者には第一選択となっている吸入ステロ
イド薬や併用薬で効果がみられない場合
は経口ステロイド薬を使用することも記
述している。

しかし、経口ステロイド薬の服用に抵
抗感を持つ患者もおり、ガイドラインで
も「可能な限り連用を回避する」との一
文も付け加えられている。

◆ タンパク質に着目

重症患者向けに数年前に現れたのがバ
イオ製剤（抗体薬）です。気道の炎症を
抑えるという発想とは全く別の概念で、
ぜんそくにかかわるタンパク質を一つ一
つ地図のように表しメカニズムをあぶり
出し、それらを抑える抗体を作って体内
に入れるというもの。

この薬剤についてガイドラインでも重
症患者向けに選択肢の一つに挙げ、「有用
性」を指摘している。

「従来のように症状をコントロールす
るのではなく、ぜんそくを根治させるた
めの研究に基づいている」と「この薬剤で
よく眠れるようになったという患者さん
もおり、今後の効果拡大も期待される」と
話す。

そもそも、自分がぜんそく患者だと気
づかずに過ごしている人も多い。また、
せきなどの症状がいったんおさまると
「治った」と自己判断し、治療を途中でや
めてしまう人もいる。

「せきが1週間以上続く場合や、特に夜
間の症状で目が覚めるような場合はぜん
そくの可能性も疑うべきだ。重症化を防
ぐためにも早期に専門医を受診した方が
いい」とアドバイスしている。